



活動報告

ゆう しきょう せい

風評対策事業に注力

県議会は六月二十二日に開会し、知事提出議案37件、報告8件、新型コロナウイルス感染症による低減している県内経済への対策費やALPS処理水の海洋放出に伴う風評対策費を盛り込んだ補正予算案について審議を行い、七月七日に閉会しました。

県議会6月定例会

一般会計補正予算
240億4,200万円

県議会は16日間の審議を終え、提出された議案のうち、知事提出議案37件、議員提出議案7件を可決、承認しました。今定例会で審議した一



般会計補正予算は、新型コロナウイルス感染症対策に係る経費のほか、風評対策として、漁業の魅力発信や県産水産物の購買促進、風評対策情報デジタル化による効果的な発信と分析などに要する経費が含まれています。

― 新型コロナウイルス対策 ―

新型コロナウイルス感染症対策では、感染者が発生した介護サービス事業所に対して、職員の確保や消毒など、感染防止対策のために通常の介護サービスよりもかかる経費等を支援、また患者を受け入れる医療機関に対しては、治療に必要な機器等の整備に係る費用、さらに検査体制の強化では、外部検査体制の充実と高齢者施設等における従事者等への検査を着実に実施するための経費を増額いたしました。

― 観光振興策 ―

観光振興策としては、県民限定の観光周遊宿泊支援対策事業として「県民割プラス」を準備した

一般会計補正予算の主な内容

- 入院医療機関等への設備整備支援 (6億1,800万円)
- 感染拡大に備えた検査体制の強化 (5億7,510万円)
- 中小企業等への融資枠の確保 (108億6,600万円)
- 地域公共交通機関への運行支援 (5億6,490万円)
- 県民限定宿泊割引「県民割プラス」 (43億4,010万円)
- 県産酒の消費拡大に向けたキャンペーン等の実施に要する経費 (1億4,230万円)

― 農林水産業振興 ―

福島第一原発の処理水処分に関する方針決定に伴い、懸念される風評への対策強化として、輸入手続きがスムーズなPRいたします。

また、本年二月の福島県沖地震で被災した農業用機械等の復旧や防災重点農業用ため池の防災工

事に向けた劣化状況評価等が実施されます。

― 会津地域振興 ―

会津13市町村で進める「会津地域デジタル変革プロジェクト」による市町村標準業務構築モデル事業の実施のための費用を計上、JR只見線については、令和四年中の全線開通に向け、六月三十日に会津川口から只見間の上下分離に伴う第三种鉄道の申請を国に対して行いました。

また今年十月には、会津鉄道が所有する「お座トロ展望列車」を活用した臨時列車の運行を開始



新過疎法への対応

自民党派「過疎・中山間地域振興条例改正プロジェクトチーム」

「福島県過疎・中山間地域振興条例改正に向けたプロジェクトチーム」のメンバーとして、これまで関係機関や有識者、市町村などから聞き取りを行い、検討を重ね改正案の取りまとめを行ってきました。

会派内に設置された「福島県過疎・中山間地域振興条例改正に向けたプロジェクトチーム」のメンバーとして、これまで関係機関や有識者、市町村などから聞き取りを行い、検討を重ね改正案の取りまとめを行ってきました。

今回、国が今春に施行した新過疎法で過疎地域の指定要件を満たさなくなった会津坂下、湯川の両町村についての対応をどう規定するかが課題でした。取りまとめた改正案では、両町村を県独自で過疎地域として定め、さらにICTや再生可能

エネルギーの活用といった視点や関係人口の創出や移住を支援する子育て・教育環境の充実を盛り込んでいます。六月二十二日に太田光秋議長に対して自民党派を提出し、九月定例会で条例改正の審議が行われる予定です。

好日は 是日

― 有志竟成 ゆうしきょうせい ―
この新聞の題字となっている「有志竟成」の意味をよく訊ねられます。
この言葉の典故は、中国の歴史書「十八史略」東漢篇によるもので「志ある者は事(こと)竟(つひ)に成る」と訓読します。
二〇一八年にノーベル医学生理学賞を受賞した京都大学の本庶佑(ほんじよたすく)特別教授が、ストックホルムにあるノーベル博物館に寄贈した色紙にも書いた言葉で、「志を曲げることなく、固い信念を以て事に当れば遂には実現される」という意味になります。
自分自身の政治姿勢の中心に据えたい言葉として、題字に選びました。

― 住環境改善 ―
野生鳥獣対策については、ツキノワグマの目撃件数が多くなっていることから、今年度、本県初

となる「ツキノワグマ出没注意報」を発令いたしました。今後も、最大限の注意喚起と被害防止対策に向け、市町村など関係機関との連携強化を求めてまいります。

また、近年増加しているイノシシについては、狩猟捕獲、有害捕獲および県の直接捕獲を合わせ

昨年年度の捕獲頭数が3万5千頭を超え、過去最高となりました。今年度からは、さらに対策を強化するためICTワナの貸出を実施しております。

6月定例会

一般質問

六月三十日の一般質問に登壇いたしました。以下は、その答弁内容です。

アフターコロナを見据えた今後の県づくりについて

知事 新型コロナウイルス感染症が、本県の復興・創生に影響を及ぼし続けている中、現在策定を進めている新たな総合計画においては、アフターコロナを見据え、新型コロナウイルスによる社会変革を的確に反映し、復興・創生の取組を着実に進めた先の二〇三〇年に実現したい福島の将来の姿を描いていきたいです。そのため、計画に位置付ける政策については、根拠に基づく政策立案の考え方を可能な限り取り入れながら、計画策定後においてもPDCAサイクルの確実な実行により事業効果の適切な評価と具体的な成果の創出の見える化を意識してまいります。



デジタル変革に向けた業務の効率化について

従来の仕事の仕組みや進め方の抜本的な見直し、行政手続きのオンライン化の拡充など、業務の効率化を一層推進し、県民の利便性の更なる向上につなげてまいります。

若手職員の育成について

若手職員の育成につきましては、基本的知識の習得や政策形成能力の向上に向け、職場内での日々の指導や職層別の集合研修等を行ってまいります。昨年度からは、新規採用職員が、被災地の現状や課題について現地で学び、復興を自分事として考えるための研修や受講職員の代表者が知事と意見交換を行い、その思いや現場主義の大切さを学ぶ取組も始めたところであり、今後とも、復興を始めとする困難な課題に対して、積極的に挑む職員の育成に努めてまいります。

離乳前の猫の殺処分数の削減について

本県の殺処分数の約7割が飼育に手のかかる離乳前の子猫となっており、佐藤議員から例示された他県の取組である「ミルクボランティア制度」に学び、一匹でも多くの命を助けるため、本年五月に譲渡の運用について見直しを行うこととなります。

新たな運用では、離乳前の猫を適正に飼育するために必要な知識や経験があると認められる方を対象に譲渡することとしております。

保育現場におけるICTの導入による業務の効率化について

郡山市内の保育所において、保育業務を支援するシステムの機能強化により業務の効率化を図るモデル事業を実施することにも、県内保育所等を対象として、既存システムの改修費用や専門家によるコンサルテーションの費用を支援しております。今後は、これらの成果を広く周知しながら、ICTの活用による保育現場の負担軽減を図ってまいります。

今後も想定される新型コロナウイルス感染症の発生を考慮し、地域医療構想の推進について

今回の新型コロナウイルス感染症が、地域の医療提供体制などに及ぼした影響を踏まえ進めていく必要があると考えております。そのため、各地域の地域医療構想調整会議において、今回の経験を通して得られた問題点や影響などの議論を通じて、地域の実情に即した取組となるよう進めてまいります。

ふくしま医療機器開発支援センターを核とした本県の医療関連産業の振興について

ふくしま医療機器開発支援センターでは、製品開発から事業化まで一体的に支援しており、着実に関連産業の集積が進んでおります。

今年度は新たに、クーディネーターを配置し、県内企業との橋渡しを行い、新規参入を促進することにも、安全性評価試験及び人材育成事業の更なる利用拡大に努め、医療関連産業の一層の振興に取り組んでまいります。

医療機器の高度化に対応した職員の技能向上や試験の品質を確保する各認証の更新を確実なものにするなど、企業のニーズ等を踏まえた試験機器の整備・更新を計画的に行うことにより、新たな医療機器開発に挑戦する企業の取組を支援してまいります。

みどりの食料システム戦略に掲げる農林水産業の生産力向上と持続性の両立に対する考えは

生産力向上と持続性の両立につきましては、これまでエコファーマーの育成や、水田のメタン発生抑制など環境に配慮した生産技術の開発・普及等に取り組んでまいりました。今後は、環境負荷を軽減するスマート技術の導入や生産基盤の整備・有機栽培の拡大、森林資源の循環利用、漁場の適正管理などの取組を強化し、持続性に配慮した生産力の向上を図ってまいります。

県オリジナル米「福、笑い」の生産振興について

販売状況等の分析により作付面積を定め、認証GAP取得者による研究会を生産者として登録し、栽培基準を統一するなど、管理を徹底しております。

さらに、栽培技術の向上と平準化に向けて、研究会ごとに設置する実証ほ場を活用し、生育診断に基づく栽培指導や研修会を行うなど、高価格帯の米にあざわしい高品質な「福、笑い」の生産振興に取り組んでまいります。

県オリジナル米「福、笑い」の販売促進について

認証GAP取得者が限られた面積で生産する希少性や、先行販売で高い評価を受けた食味の素晴らしさをPRし、県産米を牽引するトップブランド米としての定着を目指しております。

このため、米穀専門店への戸別訪問や、百貨店でのギフト展開による販売開拓に加え、本格販売に合わせたテレビCM等により、首都圏における知名度の向上を図りながら「福、笑い」の販売を促進してまいります。

内水面漁業の振興について

遊漁の再開に向け、漁協と連携しモニタリング検査に取り組んでおり、漁場によっては一部の魚種に出荷制限が残るものの、浜通りの一部の漁場を除き遊漁が可能となっております。

引き続き、遊漁者数の回復に向け、種苗放流への支援等に取り組むとともに、水産資源研究所において、遊漁者のニーズに合った友釣りに適する本県産アユ種苗の安定供給に着手するなど、内水面漁業の振興を図ってまいります。

避難路に面した建築物の耐震化について

耐震改修促進法に基づき指定した避難路の沿道で、地震時の倒壊により、通行を妨げる恐れがあるものを対象に、所有者等へ耐震診断を実施し、本年末までに結果を報告するよう求めております。

今後は、耐震基準を満たさない場合に、円滑に改修等の設計

運転免許証更新手続きの簡素化について

昨年、県議会2月定例会での私の一般質問において、運転免許証更新手続きの簡素化について質問をいたしました。

これを受け、県警では昨年九月一日から棚倉警察署及び南会津警察署において、事前予約により更新申請手続きと講習を一日で終了するサービスを試行しました。

七月一日からは、更新手続きを行っている全ての警察署及び分庁舎において、優良運転者を対象に試行を拡大することになりました。引き続き、行政サービスの向上のため提言を行ってまいります。

れっております。

全線での四車線化は、大規模災害時等に備え、広域的な道路ネットワークを強化する上で必要不可欠であることから、事業化された区間の早期完成と残る区間の早期事業化に向けて、沿線自治体等と共に、国等に強く働きかけてまいります。

会津縦貫南道路の整備について

県において、下郷町小沼崎ハイパスについて、阿賀川に架かる橋梁やトンネル工事を進めており、また、国が施行している湯野上ハイパスについては、トンネルなどの工事が進められております。

今後は、国と連携し、早期の供用を目指し、残る工事の進捗を図るとともに、会津若松市門田町から芦ノ牧までの区間の事業化に向けて、調査を進めるなど、引き続き、会津地方の高速ネットワークの早期完成に向け取り組んでまいります。

警越自動車道の全線四車線化について

優先整備区間に選定されている会津若松から安田間のうち、会津坂下から西会津間の一部など事業化された区間について、工事着手に向けた調査等が行わ

編集後記

県議会六月定例会とほぼ同時に、会津若松市議会の六月定例会も開かれます。

私の過去の質問から一気に事業化につながった「林業アカデミーふくしま」が、いよいよ来年度の本格運用に向けて、この春に研修事業をスタートしました。こうした県の取組に対しては、市町村の協力が不可欠であるため、会津若松市議会の小畑匠議員と連携し、六月議会の一般質問の機会に、林業アカデミーふくしまへの市職員の派遣について質問をさせていただきました。

今後も市と県が連携できる「つながる政治」を目指し、このような活動も報告いたします。